

## 生物がおこなう形の造り方と形の使い方

オーガナイザー：木原久美子

講師：本多久夫

生命のあるものについて理解したいと思うのは人間がもつ基本的な探究心であると思います。では何を持って生命のあるものを理解したことになるのか、また、どのような問いかけをもって探求しようとするのかは人それぞれに切り口があるでしょう。その探究心を満たすべく、これまで生物学では生化学に代表されるような科学が大きな役割を果たし、これにより多くの現象の詳細が明らかになりつつあります。しかしながら、遺伝子産物が出そろっても、素反応の詳細があきらかになっても、なんだか生物を分かった気になれないという感覚を持つ人もいるのではないかと思います。実際、遺伝子は生き物のすべての事柄を記述しているのでしょうか？

本講義ではこの問いかけに、形という切り口からお話いただきます。本多先生は、多様で羅列的でとらえどころなく記述されているようにみえる生物体も、たとえば、その形成過程をみると、非常に明確な原理が貫かれていることを数理的手法とともに研究されて来ました。生物の形は自己構築により形成されるという考えを基盤に、かたちが生み出す新しい世界について、生物の自己相似構造、階層的構造と自己組織化にふれて講義していただきます。是非お集まりください。